

講演スタッフプロフィール

希望を感じられる社会を、次の世代へ

職場とLGBTというテーマで活動を始めたのは、私自身がレズビアンであり、転職を繰り返し、職場で居心地悪さを抱えていたからです。2012年、海外の情報をインターネットで見て、企業に働きかける方法があると気づき、それならコンサルタントの経験を活かすことができると思い、活動を始めました。「虹色」は世界中でLGBT支援のシンボルとして使われている、性の多様性を祝福する意味がある6色の虹です。「ダイバーシティ」は英語で多様性を指し、多様な人が活躍できる環境をつくるのが、組織をより強くするという考えのこです。ダイバーシティ推進の文脈でLGBTに取り組む企業が増えることで、LGBTも働きやすい職場を増やしていきたい、という願いを込めました。2020年時点で、LGBT施策に取り組む職場は大手企業の4割になりました。しかし、当初の課題が解決しているかといえば、まだまだです。私は今、職場に限らず、LGBTの生きにくさの要因になっている、大本のところを変えたいと思っています。自分は他の人と違う、と気づいた時に、絶望でなく、希望を感じられる社会を次の世代に残すために。共感してくださる方、是非、一緒に変えていきましょう！



理事長・代表

村木 真紀

Maki Muraki

1974年茨城県生まれ。社会保険労務士。京都大学 総合人間学部卒業。関西学院大学 非常勤講師。MBSラジオ審議委員。日系大手製造業、外資系コンサルティング会社等を経て現職。LGBT当事者としての実感とコンサルタントとしての経験を活かして、LGBTに関する調査研究、社会教育活動を行っている。大手企業、行政等で講演実績多数。大阪市人権施策推進審議会委員（2015年11月～2018年10月）、茨城県性的マイノリティへの支援策勉強会委員（2019年）、京都市人権文化推進懇話会 LGBTに関する専門意見聴取会委員（2020年）。日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2016 チェンジメーカー賞」受賞。団体として、2015年「Googleインパクトチャレンジ賞」、2016年「日経ソーシャルイニシアチブ大賞 新人賞」、2019年「大阪弁護士会人権賞」を受賞。自著「虹色チェンジメーカー LGBTQ視点が職場と社会を変える」、共著「職場のLGBT読本」、「トランスジェンダーと職場環境ハンドブック」。



東京スタッフ

有田 伸也

Shinya Arita

1986年奈良県生まれ。近畿大学理学部卒業。5つ星ホテル、飲食業界にてマネジメント業務に従事。ソムリエ資格所持。前職の飲食関連ベンチャー企業で、人事・採用・教育・労務など、人事系の幅広い業務を5年経験し、現職に。主に、企業 / 行政向け研修や相談を担当。

前職にて、ちょうど1年目が終わる頃。私は自身のセクシュアリティを、ゲイであることをカミングアウトしました。「なんて気持ち軽く、仕事がスムーズなんだ!」と、自身の状態に驚いたことを記憶しています。

当時、アライの上司がいてくれたお陰で、私はカミングアウトを「する」「しない」の選択肢を持てました。（「できない」ではなく「しない」この違いは大きかったです）私はそこから「する」を、自身の意思で選択しました。職場のLGBT施策において、カミングアウトをする人が増える事は決してゴールではありません。私のゴールは当事者が様々な選択肢を持てることです。「できない」を「できる」制度や環境に変え、そして「する」「しない」「考え中」など、当事者が様々な選択肢を持った上で仕事に取り組める。そんな職場環境を皆さんとつくっていかれたらと思います！